

「町代控書」

野 高 宏 之

「町代控書」

前号で道修町三丁目文書「諸事書上控」（大阪府立中之島図書館所蔵）の第一冊の史料紹介をおえた。「諸事書上控」は町会所の町代が作成する記録である。内容は町奉行所や惣会所などへ提出した届書・願書などの控が中心である。これに関連する参考史料として、今回、大阪市立中央図書館が所蔵する「町代控書」を翻刻紹介する。内容は丁代が作成する文書の雛形（文例）集である。これまでに翻刻紹介した「諸事書上控」には家出断や久離願がある。こうした諸届の文例をまとめたのが、「町代控書」である。

「町代控書」の作成は享和二年（一八〇二）である。

作成者は高嶋蔀周知と記されているが、どのような人物かは不明である。史料の末尾に磯矢氏の在宿中に認めた旨の覚書がある。大坂東町奉行組与力に磯矢与一兵衛がおり、享和二年には寺社役についている。この覚書から、町奉行所の与力が高嶋家に滞在したおり、彼と相談しながら作成したと考えられる。大坂市中の町代関係者が作成に関わったものと推測されるが、高嶋蔀との関係は不明である。

江戸時代後半には大坂市中で町代を勤める者同士が、血縁関係その他でネットワークを形成するようになる。また町奉行所等へ提出する書類も書式が定型化する。そ

の結果、どこの個別町の町代を勤めても、作成する文書に関してはほぼ定型の作業となった。これが「町代控書」が作成される要因であったと思われる。町代は江戸時代の後半には「丁代」と記される場合が多くなるが、本稿では「町代」で統一する。

「諸事書上控」のような町会所の記録を確認するかぎり、町代は町奉行所（町奉行）、惣会所（惣年寄）、個別町会所、廻船会所、寺院（またはその勧化所）宛てに文書を作成する（内田九州男『道修町三丁目丁代日誌』解題）大阪市史料第六十三輯 二〇〇四年）。「町代控書」はそのうち、町奉行所を意識して作成したものと考えられる。

「町代控書」は七十五件に追加の七件を加え、八十二件からなる。第一から第十四は質入・貸借・借屋・奉公など庶民と庶民のあいだで交わされる個人レベルの証文である。こうした案件は出入筋（民事訴訟）に発展する可能性がある。証文の内容に関し紛争が生じ解決が困難な場合、町奉行所に訴える。こうして訴訟が発生してか

ら解決にいたるまで、町代はさまざまな書類を作成する。第一から第十四の証文は町奉行所宛に作成するものではない。しかし将来の紛争にそなえ、個別町がその控を作成する慣行があったのである。「町代控書」という表題は、したがって「町代の職務を遂行するためのマニュアル」という意味ではなく、「町奉行所に関係する書類を町会所で保管するため町代が作成する控書」という意味に解釈できる。

目次では第七と第八の間に八件の項目が追加挿入されている。この八件に関連はない。

第十五から第四十四は、訴訟中に町が町奉行所に提出する文書の控書である。その内訳は次のとおりである。

目安関係	十五～二十
対決（審理）中	二十一～三十
結審	三十一～三十六、四十五
先訴・願掛け	三十七～四十
その他（補足）	四十一～四十四
第四十五から第七十五（五十二、六十五、六十八、七十一	

を除く）は、町内から家出・久離・捨子・野非人行倒・変死が発生した場合や家普請などで往来に板囲を出す際に町奉行所に提出する届や願書である。

個別町の代表は町年寄である。この町年寄を補佐して町運営の実務を担当するのが町代である。町代は惣会所の家守を兼ねる場合があるといわれるが、道修町三丁目のようにはじめに町会所の家守がおり、のち家守が町代を兼ねる場合もあった。文化十二年（一八一五）頃から町代は町会所内の借屋には住まず、かわりに町会所の「借屋家守」（町代下役）が居住するようになる（「道修町三丁目文書水帳」）。道修町三丁目文書「宗旨巻」を分析すると、町代（町会所家守）は十七世紀後半から十八世紀半ばまでは世襲である。在職期間も長期にわたる。やがて町会所家守という性格に町代の職務が加わる。ところが十八世紀後半からは世襲が減少し、在職期間も短くなっている。それと前後して大坂三郷内で町代をつとめる親族ネットワークが形成されるようすが別の史料からうかがえる。（道修町三丁目文書の「諸事書上控」や町

代請書など）。

道修町三丁目文書には新任の町代が町内に対して提出した請書がある。参考史料として掲げておく。

【参考一】文政六年「丁代請負一札」

（道修町三丁目文書一九二―一二四）

一札

一此度御町内丁代役私江被為 仰付奉畏難有奉存候、然ル上者万事御年寄様江御窺奉申上御差図通役義実躰仕、御用向大切ニ相勤可申候、尤御町人中様御借屋中様御用之儀有之候ハ、早速罷出、被為 仰付候義何事ニ不寄龜略不仕様相勤、猶亦会所屋敷奉預り候得者、火之元随分念を入、且人寄之儀者勿論親類たりとも無断止宿為致候義決而仕間鋪候、此外諸事我假之取計一切仕間敷候、尤不行届之私ニ御座候得者此以後思召ニ不相叶義有之、其段被為 仰聞候ハ、無異儀退役可仕候、為後日一札仍而如件

丁代

文政六末年四月

紀伊国屋

御町人中様

道修町三丁目

清七^印

御年寄様

御町人中様

前文之趣私共慥ニ承知仕候得者精々申聞役義大切ニ出精
為致、猶亦從 御公儀様被為 仰出候御法度之義者勿論
御町諸事御作法之通り堅為相守、叮嚀ニ為相勤可申候、
以来清七義不埒不勤之義有之、暇御遣被成候義有之候
ハ、無異儀退役為致、我々共方江引取可申候、自然清七
身分ニ付如何様之儀出来候共、我之何方迄も罷出急度引
請無滞埒明、御町内江少シも御難儀掛ケ申間鋪候、為後
証奥印形仍如件

文政六末年四月

紀伊国屋

請人

藤兵衛^印

井筒屋

証人

次作^印

御年寄様

【参考一】は文政六年（一八二三）に紀伊国屋清七が町
代に就任するに際して町内に提出した請書（誓約書）で
ある。ここには以下の内容が記されている。

- ① 町年寄の指示に従う。
- ② 町内で暮らす町人や借家人の御用を勤める。
- ③ 火の元など町会所の管理を行う。
- ④ 人寄宿、親戚の宿として町会所を使用しない。

【参考二】文化十二年「町交代につき請負一札」

（道修町三丁目文書一九二一六六）

ケ條

一町内丁代此度勤方申渡申付候者諸事伊三郎丁寧ニ可相
勤儀者勿論之儀ニ候得共、若年之儀故伊介致心添手支
無之様諸事心添致可相勤候事

一宗旨人別之儀ハ別而太切之事ニ候得者其度々書入いた
し印形取置可申候事、万一延引相成候而故障等出来候
時者丁内之難儀相成候事、此儀第一相心得、人別出入

其度々相糺置可申候事

一惣会所其外方相廻り候廻文等之儀も下人兩人二不任、自分相写、右等之儀相心得写置可申候事

一御触書之儀も文字不違様ニ写取よみかたき文字者かな付ニいたし、丁寧ニ相認丁内へ差出可申候事、近頃写取不宜丁内ニ沙汰も在之候事

一神事之節杯俄と号人集之催し事丁内においても沙汰在之候、居町之儀ハ此方より察度可致儀者無之候得共、丁内兼帯与在之候得者先規方右様之儀決而無之、隣町之勤方等聞合可申候、此儀急度相心得右様之事共已来在之ニおいてハ急度沙汰ニ及可申候間、兼而此段申入置候事

一伊三郎儀日々会所へ参り用向等相糺置引取可申候、捨置手支等出来候上者早速退役申付可申候事

一丁内歩行いたし候節随分腰ヲか、め通り可申、暑中なとにすけかさ等而渡ひ通り候事堅無用之事

一式日ニ御年寄はしめ家持・家守中迄朔日・十五日礼ニ相廻り可申候事

一御公儀様へ書上候町内衆中の方願事并他所江返答仕候儀、右控帳江写方不行届趣相聞候、此儀太切之事ニ候へ者急度控置可申候事

一惣鉢何事ニ不寄控方之儀八年数相立候而も御公儀様江掛り候出入在之時者証拠物之事ニ付太切之儀ニ候得者急度相心得置可申候事

右御書付御渡勤方之儀被仰渡奉畏候、急度相心得相勤可申候、依之御請書奉差上候処如件

文化十二年

丁代 伊三郎 印

亥七月

親 伊介 印

御年寄様

御年番様

御町中様

【参考二】は文化十二年に伊三郎なる者が町代を勤めるに際して、親の伊介（伊助と記載する史料もあるが本稿では伊介で統一する）と連名で町中に提出した十カ条の誓約書である。同年の「町代伊三郎請負一札」（道修町

三丁目文書」二九二―二六九）によると、伊三郎は中船場町の町代であるが、子の伊三郎が若年なので、親の伊介が道修町三丁目の町代を兼帯するとしている。ちなみにこの史料には町代伊三郎・中船場町町代伊介・淡路町町代平助の三名が署名している。平助は親類として請人になつていたのである。

史料二の各条文を意識すると以下の通りである。

- ① 伊介は若年ゆえ諸事伊三郎が助言・補佐し勤める。
- ② 宗旨人別帳の管理は重要な職務である。人別の出入ごとに書入を行う。

- ③ 下人（下役）を二名おく。惣会所の回文等の処理は下人任せとせず自分で写を作成する。

- ④ 御触書はていねいに写を作成し町内に回す。

- ⑤ 神事の節にあらわれる俄に対しては、隣町を参考に対処する。

- ⑥ 伊三郎は毎日町会所に出勤し用件を処理して帰る。捨置や手支があつたらだちに退役を申つける。

- ⑦ 町内を歩くときは腰をかがめて歩く。夏に菅笠を用

いることは無用である。

- ⑧ 式日には町年寄をはじめ家持・家守まで朔日・十五日札にまわる。

- ⑨ 町内の衆中から公儀に提出する願書や他所への返答書は控帳や写を作成する。

- ⑩ 控を作成するのは大切な仕事である。年数は経過しても町奉行所などがとりあげる民事訴訟がある場合には大切な証拠書類となる。このことを必ず心得ておく。

この第十条に対応して作成されるのが「諸事書上控」である。江戸時代後半の町代の職務は、個別町に関わる書類の作成と記録・保管であつた。そのため、町会所の消耗品の大半は紙類であつた。宝暦九年の「町会所消耗品買入并に支途明細」（「道修町三丁目文書」二九二―一七八）をみると、この年に使用した紙の種類にはつぎのようなものがある。

片折巻 美濃紙 大半紙巻 半切巻紙 半紙巻
 閉半紙（御番所書上帳や御触書帳に閉じ込み用）

上半紙（引合書および返答書に使用）

半紙（皆造一件留帳、日記帳、御年番よりの被遺物、

御入用留帳に使用）

この他、道修町三丁目では髪結・夜番など町抱えの者の監督も町代の職務であった。「道修町三丁目文書」に残る髪結や夜番の請書をみると、町代が奥書を添えているのが確認できる。ただし、町会所が管理したであろう公役・町役その他の金銭について、道修町三丁目では町代が扱った形跡がない。道修町三丁目文書「銀子入払帳」（二七二）は十八世紀後半の道修町三丁目の一年間の収入と毎月の支出を記録したものである。この毎月の支出記録は月行司二名が署名している。このことから、道修町三丁目では町会所の支出は月行司が監査したことがわかる。

参考文献

吾偉華「近世都市大坂の町代について―道修町三丁目を対象として―」（『部落問題研究』二二二、二〇一五年）

塚田孝『大坂 民衆の近代史』ちくま書房、二〇一七年

凡 例

一、大阪市立中央図書館が所蔵する、「町代控書」（三二七 一〇〇 二・五）を翻刻した。

一、旧漢字は常用漢字に改めた。ただし、メ（貫）・メ（しめ）・カ（より）・駄（体）はそのまま使用した。

一、かな文字は現行のひらがな・カタカナに改めているが、江（へ）・而（て）・与（と）・者（は）・茂（も）などの助詞は原文のまま使用した。

一、翻刻史料には適宜、読点「、」と並列点「・」を付けた。

一、本文中の朱書は「」で示した。

一、表紙や貼紙であることを示すための編集上の注記は傍注として（表紙）、（貼紙）のように示した。

一、原文に墨消しなどで抹消された文字には取り消し線「□□」を付けた。

一、判読が困難な文字は□で示し、推定可能な場合は右

側に傍注を付け、（ ）に収めた。

一、筆者が加えた傍注と注記には（ ）、【 】を付け、原文と区別した。

一、文意が通じないが原文のままとしたものには傍注として（ママ）を付けた。

一、敬意を示す闕字や平出は一字あけとした。

〔表紙〕
町代控書

〔表紙裏〕
堺御用日

三日 七日 十三日

十八日 廿三日 廿五日

廿七日

公事訴訟日

二日 五日 七日

十三日 十八日 廿一日

廿五日 廿七日

正月十八日〆初り十二月十八日限

公事者朝六ツ時前、訴訟者六ツ時過〆罷出、惣代部屋ニ而帳面ニ付キ、夫〆御前江罷出候事

十二月二日・五日願ハ 正月十八日御召

同七日願者

同廿一日御召

同十三日願者	同廿五日御召
同十八日願者	同廿七日御召
二月八元之願日へ戻ル	
二月〆十一月迄同断	
十一月廿一日〆廿七日迄ノ願八十二月十八日ニ相成ル	
預り証文認方	(番付朱書) 「壹」
同連印証文	「二」
年賦節季崩証文	「三」
同連印証文	「四」
家質証文	「五」
同利銀請負	「六」
家売券証文	「七」
ヲクニ(通番の箇所に朱の押印)	
△ 乳母手形	
△ 不通養子手形	

[illegible]

引取一札	〔十四〕	同 相手方之断	〔卅〕
壳掛ケ目安	〔十五〕	身局限請取候上願人之断	〔卅一〕
預ケ銀目安	〔十六〕	身局限相渡相手方之断 并諸色附帳認方	〔卅二〕
（朱書）「同名前脇書認方」		押込中ニ出入相済候相手方之断	〔卅三〕
家明願掛ケ	〔十七〕	同願人方之断	〔卅四〕
家質目安	〔十八〕	目安中病死断	〔卅五〕
同利銀目安	〔十九〕	同願人病死之断	〔卅六〕
証文之写奥書	〔貳拾〕	先訴之断	〔卅七〕
病氣断 忝度目 式度目	〔廿一〕	先訴相済後訴請直し断	〔卅八〕
対決返答書	〔廿二〕	同願出シ之断	〔卅九〕
対決前願下ケ	〔廿三〕	同願止メ之断	〔四十〕
対決後済口	〔廿四〕	目安町名・家号・名前違之断	〔四十一〕
過半済断	〔廿五〕	御召日不参断書	〔四十二〕
（朱書）「但双方老紙」		同願人方之断書	〔四十三〕
切日之上出入不済願人方之断	〔廿六〕	御糺ニ相成候出入済口之断書	〔四十四〕
同相手方断	〔廿七〕	同済口証文	〔四十五〕
病氣見届之断	〔廿八〕	家出之断	〔四十六〕
押込之上出入不済願人方之断	〔廿九〕		

「町代控書」

同残シ道具書上	〔四十七〕	同高原小屋江遣候書付	〔六十五〕
家出残シ道具無之断	〔四十八〕	同非人相果候断書	〔六十六〕
家出之者罷帰候時之断	〔四十九〕	同御証文	〔六十七〕
残道具同家之者へ被下度願書	〔五十〕	同墓所江遣候書付	〔六十八〕
同御礼之書附	〔五十一〕	往来人相果候断書	〔六十九〕
家請会所江家明届	〔五十二〕	同人主不知断書	〔七十〕
久離願	〔五十三〕	同仮片付墓所へ遣候書付	〔七十一〕
同住居有之者願候認方	〔五十四〕	変死之断	〔七十二〕
同御赦免之願書	〔五十五〕	同御請証文	〔七十三〕
普請板囲願書	〔五十六〕	家質置主身躰限り二付銀主之断	〔七十四〕
同取払之断	〔五十七〕	右二付請取候断	〔七十五〕
浜地普請願書	〔五十八〕		
同板囲之願書	〔五十九〕		
同取払之断	〔六十〕		
撰持日覆之願	〔六十一〕		
捨子之断	〔六十二〕		
同貰人有之候上願書	〔六十三〕		
非人行倒之断	〔六十四〕		

〔以下、「内朱書」〕
「壺 預り証文認方」

預り申銀子之事

合銀何百目也

右之銀子慥ニ預り申処実正也、然ル上者利銀壺ヶ月二何程ツ、相加へ、来ル何月限此手形を以急度返済可申候、為後日預り証文仍而如件

年号月日

何屋

何 兵 衛

何屋

何右衛門殿

「式 連印預証文」

預り申銀子之事

合銀何貫目也

右之銀子我々中江慥ニ預り申所実正也、然ル上者利銀壺ヶ月二何拾匁ツ、相加へ、来ル何月限此手形を以急度返済可申候、若連印之内如何様之差支御座候共、残ル印形之者ハ無滞返并可申候、為後日預り証文仍而如件

年号月日

何屋

何 兵 衛

何屋

何右衛門

何屋

何左衛門殿

「三 節季壞崩シ年賦証文」

預り銀年賦証文之事

合銀何百目也

右之銀子慥ニ預り申処実正也、然ル上者返済之儀節季毎ニ銀何拾匁ツ、急度相渡可申候、若壺ケ度ニ而も相滞義有之候ハ、右年賦相對通り相止メ、元銀高二而御取立可被成候、其節少も違背申間敷候、為後日預り銀年賦証文仍而如件

年号月日

何屋

何右衛門

何屋

何 兵 衛 殿

「四 連印年賦証文」

預り銀年賦証文之事

合銀何貫目也

右之銀子我々中江慥ニ預り申処実正也、然ル上者返済之儀何ヶ年賦ニ相定、壱ヶ年ニ銀何百匁ツ、急度相渡可申候、若壱ヶ度ニ而も相滞義有之候ハ、右年賦相對通り相止メ、元銀高二而御取立可被成候、其節少も違背申間敷候、勿論連印之内如何様之差支御坐候共、残ル印形之者ハ無滞返済可申候、為後日預り銀年賦証文仍而如件

何や

誰

年号月日

—や

同

—殿

「五 家質証文」

家質証文之事

一何町何丁目何屋何兵衛家屋敷、表口何間、裏行何拾間、但幾役壱ヶ所、右地面ニ土蔵一ヶ所、本戸前附建物不

残有姿之俣、北隣者何屋誰、南隣者何屋誰、右之家屋敷来ル何之何月迄銀何拾貫目之家質ニ差入、則銀子不残慥ニ請取申処実正也、然ル上者家質利銀壱ヶ月ニ何拾匁ツ、毎月無滞相渡、公役ノ役此方ハ相勤可申候、万一滞義有之候ハ、右家屋敷致帳切、無異儀相渡可申候、為後日家質連判証文仍而如件

家質置主

年号月日

何屋 何兵衛

五人組

何屋 何兵衛

何屋誰幼少代判

同 何兵衛

何屋誰家守

同 何屋 何兵衛

年寄

何屋

何兵衛

何屋

何兵衛殿

「六 家質利銀請負」

家質利銀請負証文之事

一何町何丁目何屋何兵衛家屋敷、表口何間、裏行何拾間、但シ幾役壺ヶ所、右家屋敷来ル何之何月迄銀何拾貫之家質ニ差入、別紙本証文之通銀子不殘請取被申候所実正ニ御座候、然ル上者家質利銀壺ヶ月ニ何拾匁ツ、毎月晦日無滞相渡させ可申候、万一滞儀有之候ハ、何程之銀高ニ而も本人ニ不抱、我等方ハ急度相渡可申候、尤元銀済候共利銀皆済致候迄ハ此手形御用可被成候、為後日利銀請負証文仍而如件

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

何右衛門殿

「七

家売券証文」

手形云事

永代売渡申家屋敷之事

一何町何丁目何屋誰家屋敷表口何間、裏行何拾間、但シ

幾役壺ヶ所、右地面ニ土蔵壺ヶ所、本戸前附建物不殘有姿之通、東隣者何屋誰、西隣者何屋誰、右之家屋敷銀何拾貫目ニ其元方江永代売渡、則銀子不殘慥ニ受取申所実正也、然ル上者右家屋敷之儀ニ付、諸親類者不及申、脇ハ違乱申者無御座候、万一妨ヶ申者出来候ハ、此判形之者共罷出、急度埒明可申、為後日売券証文仍而如件

年号月日

家売主

何屋

五人組

何屋

同

何屋

同

何屋

年寄何屋

殿

(八) 田地質本銀返証文)

「田地質物ハ一通り之質証文ニ而ハ質ニ不相成、左之通

本銀返壳渡証文并小作証文共ニ通取之可申事」

本銀返壳渡申田地之事

字何

一上田幾畝何歩

分米何斗何升

字何

一中田何反幾畝

分米何石何斗

字何

一上畝幾畝何歩

分米何斗何合

反別

分米 何反幾畝何歩

何石何斗何升

右者我等所持之田地ニ御坐候処、此度本銀返シ代銀何

貫目壳渡申所実正也、然ル上者来ル何之何月限ニ右銀

子相立、田地請戻可申候、万一切月相過候ハ、其元定

作ニ可被成候、右田地ニ付脇方違乱申者無御座候、為

後日本銀返シ壳渡証文仍而如件

壳渡主

何村

年号

何兵衛

月日

請人

同村

何兵衛

右之田地畝歩分米相違無御坐候ニ付、奥印仕候、已上

何村庄屋

何右衛門

何村

何右衛門殿

「九 小作証文」

小作請負証文事

一上田幾畝何歩

分米何斗何升

此有畝何反幾畝

宛米何石何斗

一中田何反何畝

分米何石何斗

此有畝何反幾畝

宛米何石何斗

一上畑幾畝何歩 分米何斗何升

此有畝何反幾畝 宛米何石何斗

有畝ノ何反幾畝何歩

宛米ノ何石何斗何升

右者我等所持之田地ニ候得共、別紙証文を以本銀返売渡申処相違無御坐候、然ル処我等勝手ニ付、此度相對ヲ以來ル何之何月迄、高・名前共預り小作いたし、御年貢諸役我等方々相勤、作徳米代銀として豊凶之無差別、銀何程ツ、相渡可申候、若相滯義有之候ハ、請負人方相弁、無滯相渡シ可申候、為後日小作請負証文仍而如件

小作人

何村

何兵衛

請負人

同村

何右衛門

年号月日

同村庄屋

何右衛門

何村

何兵衛殿

「十 船質証文」

船質証文之事

一御極印何船老艘

右之船我等所持ニ御坐候処、来ル何之何月迄銀何百匁之質物ニ差入、則銀子不残慥ニ請取申処実正也、然ル上者利銀壹ヶ月ニ何程ツ、無滯相渡シ、公役銀并仲間諸入用等ハ此方々相勤可申候、万一滯義有之候ハ、右之船名前切替無異儀相渡可申候、為後日船質証文仍而如件

船主

何屋

何兵衛

年号月日

何屋

組合

組合無之ハ請人

何右衛門

右之通承知致候、以上

年寄無之ハ
組頭 年 寄

組頭

組頭無之ハ
年行司 年行司

何屋

何兵衛殿

急度相并可申候、其外右誰義ニ付如何様之六ヶ敷義出来仕候共我等罷出埒明、其元へ少茂御難儀掛ケ申間敷候、尤御氣ニ入極メ之外奉公幾年相勤候共此手形御用可被成候、則我等請人ニ相違無御座候、為後日奉公人請状仍而如件

請人

何屋

何兵衛

年号月日

親

何屋

何右衛門

奉公人請状之事

「十一 奉公人請状之事」

一此誰与申何歳ニ罷成候者、先祖能存知慥成者ニ付我等請人ニ相立、当何ノ何月ノ来ル何ノ何月迄何ヶ年切、給銀何程ニ相極メ、其元方へ御奉公ニ差遣申所実正也、宗旨者代々何宗ニ而切支丹ころひ之類ニ而者無之、則寺手形別紙ニ取進可申候

何屋

何右衛門殿

奉公人印形無之候ハ、調させ印形致させ可申候、落印者惡敷事ニ御坐候

一從御公儀様被 仰出候御法度之趣堅相守、御奉公大

切ニ相勤させ可申候、尤極之内勝手ニ暇乞申間鋪候、万一取逃・欠落等仕候ハ、早速尋出、引負失物之品々

「十二 年季証文」

年季奉公人請狀之事

一此誰与申何歳ニ罷成候者、先祖方能存知慥成者ニ付我等請人ニ相立、当何ノ何月方来ル何ノ何月迄中年何ケ年切、給銀何程相極メ、夏布帷子、冬木綿綿入、二季御仕着せ之約速ニ而、其元方江御奉公ニ差遣申所実正也、宗旨ハ代々何宗ニ而切支丹ころひ之類ニ而ハ無之、則寺手形別紙ニ取進可申候

一從御公儀様被 仰出候御法度之趣堅相守、御奉公大切ニ相勤させ、年季之内勝手ニ暇乞申間敷候、万一取逃・欠落等仕候ハ、早速尋出シ、引負失物之品々急度相弁可申候、其外右誰義ニ付如何様之六ヶ敷儀出来仕候共我等罷出埒明、其元へ少シも御難儀掛ケ申間鋪候、為後日年季奉公人請狀仍而如件

請人

何屋

年号月日

親

何兵衛

何屋

奉公人

何兵衛

何八

何屋

何右衛門殿

「十三 借屋請狀」

借屋請狀之事

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛義、先祖方能存知慥成仁ニ付我等請人ニ相立、家借り受申処実正也、御法度之切支丹転之類ニ而者無之、宗旨者代々何宗ニ而、則請狀別紙ニ取進可申候

一從御公儀様被 仰出候御法度之趣堅相守可申、并人請人宿等致させ申間敷候

一家賃銀毎月晦日無滯為相渡可申、万一滯義御坐候ハ、何程ニ而も本人ニ不抱請人方より相済可申候

一家御入用之節ハ何時ニ而も我等方江引取、早速明渡可申候、其外何様之儀出来仕候共、家請人ニ相立候上者我等罷出急度埒明、其元へ少シも御難儀掛ケ申間鋪候、

為後日借屋請狀仍而如件

請人

何屋

年号月日

かり主

何屋

何兵衛

何屋

何右衛門殿

「十四 引取証文」

引取一札

一其元借屋何屋何兵衛・同女房誰・子誰メ何人并跡式共、
此度勝手ニ付我等方へ引取申処実正也、然ル上者右誰
儀ニ付如何様之義出来仕候共、我等方江引請可申候、
為後日引取一札仍而如件

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

何右衛門殿

「十五 売掛目安認方」

乍恐御訴訟

願人

何町何丁目

何売掛代銀出入

何屋何右衛門

相手

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

一右何兵衛江何之何年何月方何ノ何年何月迄、何売代銀
何百匁相滞ニ付度々催促仕候得共埒明不申、下二而可
仕様無御坐、乍恐奉願上候、右何兵衛被為 御召成、
代銀相済候様被為仰付被下候ハ、御慈悲難有可奉存
候、以上

年号月日

何屋

何右衛門 印

右願之趣無相違相聞候ニ付、

乍恐奥印仕候、以上

何屋

相滞候様被為 仰付被下候ハ、御慈悲難有奉存候、以上

何屋

年寄 何左衛門 印

何兵衛

御奉行様

年号

願人借屋人なれば

月日

家主之奥印

右願之趣無相違相聞候
二付、乍恐奥印仕候、以上

「十六 預ケ銀目安認方」

乍恐御訴訟

家主 何右衛門

何屋

預ケ銀出入

願人

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

御奉行様

〔朱書〕

「右目安銀高、売掛ケ・預ケ銀共、大坂三郷八拾五匁位

相手

何町何丁目

何屋何右衛門

何町何屋誰支配かしや

右高無数分者御取上無之候事」

同

何屋何兵衛

右兩人江何之何年何月慥成証文を以銀何貫目預ケ置、利

（十七 同名前脇書認方）

銀去ル何之何月〆当何月迄何程相滞、都合何貫何百目御

座候処、入用二付度々催促仕候へ共埒明不申、下二而可

仕様無御座、乍恐奉願上候、右兩人被為 御召成、銀子

何町何屋誰借家何屋何兵衛

名前退相続人悻何右衛門名改

相手

何屋何兵衛

何町何屋誰支配借屋

何屋何兵衛病死仕相続人

忤

相手 何屋何兵衛

何町何屋誰借屋

相手 何屋何兵衛

名前添書

但証文二ハ何屋何右衛門与

有之候得共先達而病死仕、

右何兵衛義者同人忤二而、

死跡何兵衛方江引取二相成

身帶人二付、右之通相手取

申候

(合点)但帳面二ハ何屋誰与有之候

得共先達而病死仕、右何兵

衛ハ同人忤二而名前相続人

二御坐候故、相手取申候

何町何屋誰幼少二付代判何兵

衛借屋何屋何兵衛家号改△又

者名改

相手 何屋何右衛門

(合点)何屋何兵衛

右何兵衛身躰限り仕候

二付、相手取不申候

(合点)何屋何右衛門

右何右衛門病死仕相続

人無之二付、相手取不

申候

(合点)何屋何兵衛

右何兵衛住居相知れ不

申二付、相手取不申候

(合点)御堂上方者御家領と左之通可認

閑院宮様

近衛様 御家領

二條様

何州何郡何村

相手
何兵衛

御三卿様御領知と認

田安様

一橋様

清水様

御領知

何州何郡何村

相手
何兵衛

(合点)
一万石以上左之通

松平何守様御領分

何州何郡何村

相手
何兵衛

(合点)
御旗本ハ御知行所ト認

何之何之守様
何之何之助様
御知行所

何州何郡何村

相手
何兵衛

(合点)
何之何兵衛様御代官所

何州何郡何村

相手
何兵衛

「追訴ハ廿一日目ニ願、尤当番所

家明願掛ケ常之通訴訟ニ罷出、御前ニ而聞置と被

仰渡候、其方ニ而罷歸リ可申事

家請会所ハ北平野町なり」

【北平野町】家請会所は亀井町（平野町通り沿い）に所在

乍恐御訴訟

何町

家明願掛御願

何屋何兵衛

一私借屋何屋何兵衛儀、何町何屋誰家請人ニ取家貸置候
処、入用ニ付明させ申度奉存罷在候処、何町何屋何兵
衛方預ケ銀出入ニ付当何月幾日奉願上候、右出入相済
次第家明させ申度奉存候間、乍恐家明願掛ケ御聞届被
為成下候ハ、難有奉存候、以上

年号月日

願人
何屋何兵衛
年寄
何屋何右衛門

御奉行様

「十八 家質目安」

乍恐御訴訟

何町

願人

何屋何兵衛

家質銀滞出入

相手

何町何丁目

何屋何右衛門

并五人組

年寄

(朱合点)
五人組・年寄

証文与名まへちかひ候ハ、其認証文通り御坐候ハ、
此通ニ而よろしく、尤証文写添出ス

一 右何右衛門所持之家屋敷一ヶ所何之何年何月五人組・
年寄連判を以銀何拾貫目之家質ニ取置候処、入用ニ付
度々催促仕候へ共埒明不申、下ニ而可仕様無御座、乍
恐奉願上候、右何右衛門并五人組・年寄被為 御召成、
右家質銀相済候様被為 仰付被下候ハ、御慈悲難有可

奉存候、以上

年号月日

右願之趣無相違相聞候ニ付、乍恐奥印仕候、以上

何屋

何兵衛

何屋

年寄 何兵衛

御奉行様

「十九 家質利銀目安」

乍恐御訴訟

何町

願人

何屋何兵衛

家質利銀滞出入

相手

何町何丁目

何屋何右衛門

何町

同請負人

何屋何兵衛

一 右何右衛門所持之家屋敷一ヶ所、銀何拾貫目之家質ニ
取、則右何兵衛利銀請負人ニ取置候処、去ル何ノ何月

「当何月迄何百目相滞候ニ付、度々催促仕候得共埒明
不申、下二而可仕様無御座乍恐奉願上候、右兩人被為
御召成、右利銀相済候様被為 仰付被下候ハ、御慈悲
難有可奉存候、以上

年号月日

何屋何兵衛

右願之趣無相違相聞候ニ付乍恐奥印仕候、以上

何屋

年寄

何左衛門

御奉行様

「右家質利銀滞計願上候節ニ而も本証文も持参可致事」

「二十 証文之写奥書」

「惣而何之出入ニ而も、証文有之願ハ大半紙豎テニツ折
ニして口ニ証文之通無違様ニ書付、其奥書左之通ニ可
相認事」

右者今日奉願上候証文之写乍恐奉差上候、以上

何町

年号月日

何兵衛

御奉行様

「二十壺 一度目病氣断」

乍恐病氣御断

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

病氣ニ付代

何助

一何町何屋何兵衛方私相手取預ケ銀出入ニ付、先月幾日

奉願上、今日 御召奉畏候、然ル処病氣ニ付得罷出不
申、乍恐病氣御断奉申上候、以上

年号月日

代

家主

や

判計

五人組

「町代控書」

御奉行様

「右願人と申合、御当番所へ相断可申候」

「二十二
(ママ) 二度目病氣断」

乍恐病氣御断

無

年寄

願人

何町何屋誰支配
借屋

何屋何兵衛
病氣二付代

何十郎

一何町何屋誰幼少代判何兵衛借屋何屋何右衛門方私相手
取何売掛代銀出入二付、当月幾日奉願上、先月幾日御

召之処病氣二付御断申上、今日 御召奉畏候、然ル処
未快氣不仕得罷出不申二付、乍恐此段御断奉申上候、
以上

代

年号月日

家主

五人組

年寄

願人

御奉行様

「二十二 対決返答書」

乍恐返答

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

一何町何屋何兵衛方私相手取
預ケ銀 何売掛代銀 出入二付、当何

月幾日奉願上、今日対決為 仰付奉畏候、右銀高相違
御坐候へ共、近年身上不如意二付、銀子調達難仕候間、
乍恐今暫相待呉候様被為 仰付被下候ハ、難有可奉存
候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

御奉行様

「対決之上銀高相違無之候得者、拾メ目方以下ハ六十日
切、拾メ目以上者五十メ目以下迄ハ百五十日切、五十
メ目方以上ハ三百六十日切洛方被仰付候、御前相濟候
後、御当所^(番脱)二而日切証文印形致可申事」

「二十三願下ケ」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

一何町何屋誰支配借屋何屋何兵衛相手取預ケ銀出入二

付、当何月幾日奉願上候処、御威光を以右^{銀高之内何}
り何程ハ了簡仕出入^{程請取、残}下二而相濟難有奉存候、依之右願
願銀高不殘請取出入
乍恐御下ケ被為 成下度奉願上候、尤願掛ケ之有無相
手方相糺候処、後訴・願掛ケ等一切無御座候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

御奉行様

「願掛ケ有之候ハ、尤と申所方左之通二可認」

尤願掛ケ之有無相手方相糺候処、後訴有之趣申之二付
相手方丁内申合乍恐御断奉申上候、以上

「願掛ケ有之候得者、先訴人・相手丁内・後訴人三方
申合、目安方へ罷出候事」

「二十四 対決後済口」

乍恐済口

何町何丁目

何屋何右衛門

一何町何丁目何屋誰支配借屋何屋何兵衛相手取^{何売掛ケ}
^{代銀滞御}

出入、預、去何ノ何月何日奉願上候、当何ノ何月何日
ケ銀出入

対決之上六十日切済方被為 仰付難有奉存候、然ル処[△]

右願銀高何百何拾目之内、当時何百目請取、残何百目

ハ証文ニ仕、双方無申分出入内済仕候ニ付、乍恐此段

御断奉申上候、何卒御聞届被為 成下候ハ、御慈悲難

有奉存候、尤相手何兵衛儀相糺候処、此外後訴願掛[△]

ケ等一切無御座候、以上

△(朱合点)

御威光ヲ以右願銀高不残請取出入下ニ而相済難有奉存

候、依之乍恐済口之御断奉申上候、尤願掛ケ之有無、

相手方相糺候処、後訴願掛ケ等一切無御座候、以上

△(朱合点)

後訴願掛ケ之儀者相手町内方御断奉申上候、以上

何屋何兵衛

相手 何屋何右衛門

御奉行様

「対決不致候内ハ相手方連印ニ不及、対決後は済口相手

方連印致させ可申事

過半済断当番所切日方へ差出可申、於御前過半済御聞

届之上残銀又々六十日切被 仰渡候、相手方ハ所之者

付添可申、願人ハ付添ニ不及候事」

「二十五」

乍恐口上

何屋町何屋誰かしや

何屋何兵衛

一何町何屋何右衛門方私相手取^{預ケ銀}何百目相滞ニ付、
^{何代銀}

当何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切済方

被為 仰付、則今日御切レ日ニ御座候処、右銀高之内

江何程相渡過半相済申候、残銀何程乍恐今暫相待呉候

様被為 仰付被下候ハ、難有奉存候、以上

何屋

年号月日

何兵衛

右相手方申上候通、願銀高何百何拾匁之内江何程今日請

取過半相済申候、残銀何程又々相済候様被為 仰付被下

候ハ、難有奉存候、以上

何屋

願人 何右衛門

御奉行様

何 助

二八

「二十六 切日之上、出入不済願人断書なり」

乍恐口上

何町何丁目

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何右衛門相手取^{預ケ銀}出入二付、^{何代銀}

当何月幾日奉願上、同何月何日対決之上六十日切済方

被為 仰付被下、則今日御切レ日ニ御坐候得共、右出

入相済不申二付、乍恐此段御断奉申上候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

御奉行様

「二十七 切日之上出入不済相手方断書」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何左衛門

病氣二付代

一何町何丁目何屋何兵衛方私相手取^{預ケ銀}出入二付、当

何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上、六十日切済方

被為 仰付、則今日御切レ日ニ御坐候処、病氣ニ而銀

子調達難仕、右出入相済不申二付乍恐御断奉申上候、

尤此外諸掛合等無御座候、以上

年号月日

代何助

御奉行様

「二十八 切日之上出入不済候得ハ相手方病氣見届申上

候様願人へ被仰渡候書付、左之通」

乍恐口上

何町何丁目

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取^{預ケ銀}出入二付、当

何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切済方被

為 仰付、昨幾日御切レ日ニ御坐候へ共右出入相済不

申、其段御断奉申上候処、相手何兵衛病氣見届被為

仰付、則及見候処病氣相違無御坐候ニ付、乍恐書付ヲ
以御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

〔右日切之上出入相済不申、相手方病氣ニ付三十日押込
(朱書)
被仰付候、夫方当番所ニ而受証文印形御取被成候事〕

(二十九 押込之上出入不済願人方之断)

乍恐口上

〔押込出入不済願人方之断〕
(朱書)

何町

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取預ケ銀出入二付、
何壳代銀

当何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切済方
被為 仰付被下、同何月幾日御切日ニ御座候得共出入
相済不申、相手何兵衛病氣見届被為 仰付候上、同幾
日方三十日御押込被為 仰付、則今日右御切日ニ御座

候得共出入相済不申ニ付乍恐此段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

〔三十 押込之上出入不済、相手方断〕

乍恐口上

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

病氣ニ付代

何 助

一何町何丁目何屋何兵衛方私相手取預ケ銀 出入二付、当
代銀

月幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切済方被為
仰付、同何月幾日御切レ日ニ御坐候処、病氣ニ而銀子
調達難仕出入相済不申ニ付、病氣見届被為 仰付、同
幾日方三十日御押込被為仰付、則今日右御切レ日ニ御
座候得共未病氣ニ而銀子調達不仕、右出入相済不申ニ
付、乍恐御断奉申上候、以上

年号 月日

代何助

御奉行様

「三十一 身軀限請取候上、願人々之断」

乍恐口上

何町何丁目

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取^{預ケ銀}何壳銀出入二付、当

何月幾日御切レ日ニ候所出入相済不申、病氣見届之上、

同何月幾日^ハ三十日御押込被為仰付、昨幾日御切日ニ

御坐候得共右出入相済不申二付、相手何兵衛身軀限り

被為 仰付被下、則諸色何十点請取難難有奉存候、依

之乍恐書付ヲ以御断奉申上候、以上

但諸掛り合之有無認ル

何屋

年号月日

何兵衛

御奉行様

「三十二 身軀限り相渡候上、相手方々之断」

乍恐口上

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

病氣二付

代何助

一何町何丁目何屋誰^ハ私相手取^{預ケ銀}何代銀出入二付、当何月

幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切済方被為

仰付、同何月幾日御切レ日ニ候所病氣ニ而銀子調達難

仕出入相済不申、病氣見届之上同何月幾日^ハ三十日御

押込被為 仰付、昨幾日御切レ日ニ御坐候得共未病氣

二付銀子調達不仕出入相済不申二付、身軀限り相渡候

様被為 仰付、則諸色何十点相渡申候二付、乍恐此段

御断奉申上候、以上

年号月日

代何助

御奉行様

御役所^ハ請証文被仰付候、家質方へ右請証文奥ニ印形可取

「町代控書」

「身軀限り諸色付帳認様」

此片紙ニ付二ツ

何町何屋何兵衛借座何座誰
身軀限り諸色附帳

覚

一何「家屋敷有之候へ者、小口ニ認何町何屋」

一何「誰方へ銀何十ノ目、家質ニノ有之と可認之」

一何

ノ何拾点

右之通相違無御座候、以上

壹 壹 壹

株札有之候者八点ノ之外江何株与認ル

年号月日

「左ニ朱之内前家屋敷家質方渡之節」

覚

一家屋鋪 一ヶ所

右者何屋町何屋誰、

銀何ノ目之家質二入

御坐候

「品物連印一所ニ渡候節」

一何

一何

ノ何点

何屋誰方

壹 壹

家主 何屋 何兵衛

何屋何兵衛

病氣ニ付

代何助

何屋

五人組 何兵衛

何屋

同 何兵衛

何屋

年寄 何右衛門

何町

願人 何屋何右衛門

右諸色御渡被下難有慥ニ奉請取候、以上

御奉行様

「同日願者願人此奥江何人ニ而も認ル、同家人ハ前文点
数何点とメ、何屋誰ト認」

「三十三 押込中ニ出入相済候相手方之断」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

病氣ニ付代

何次郎

一何町何屋誰方私相手取預ケ銀出入ニ付、当何月幾日奉

願上、同何月幾日対決之上六十日切済方被為仰付、同

何月幾日御切日ニ候所、病氣ニ而銀子調達不仕右出入

相済不申、同幾日方三十日御押込被為 仰付奉畏候、

然ル所親類共方調達仕呉、対談之上右出入内済仕候間

済口御聞届被為 成下、何卒御押込御赦免被為 成下

候ハ、難有奉存候、以上

代 何治郎

年号月日

何屋

家主 何兵衛

何屋

五人組 何右衛門

御奉行様

年寄

何屋
何左衛門

何屋

御奉行様

何屋何兵衛御押込中二付

代——

「三十四 押込中二出入相濟候願人之断」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取預ケ銀出入二付、当何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上、六十日切濟方被為 仰付被下、同何月幾日御切日二候処出入相濟不申、同何月幾日方相手何兵衛三十日御押込被為仰付候、然ル所対談之上、右出入内濟仕候、偏ニ御威光故与難有奉存候、乍恐濟口御聞届被為 成下、相手何兵衛御押込御赦免被為 成下候様奉願上候、以上
但相手方後訴願掛之義ハ 御坐候ニ付右丁内方御断奉申上候、以上、無御座候、已上

年号月日

何屋

何兵衛

「三十五

目安中相手方病死仕候ハ、願人申合目安方へ可断出候、訴訟ハ御引上ケ、跡名前極り次第可願上旨被 仰渡候事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一何町何屋誰方丁内何屋誰借屋何屋何兵衛相手取預ケ銀出入二付、当何月幾日奉願上、同何月幾日対決之上六十日切被為 仰付、当時御日切中ニ御坐候処、右何兵衛今日何時病死仕候ニ付、願人申合乍恐右之段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

願人 何屋
何兵衛

「三十六 目安中願人病死仕候ハ、相手方申合、目安方

江御断可申、訴状者御引上ケ被成候、跡名前

極り次第願上候事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一丁内何屋何右衛門方何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取
預ケ銀出入、当何月幾日奉願上候処、右何右衛門儀今
日何時病死仕候二付、相手方申合乍恐右之段御断奉申
上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

「三十七 先訴之断願人と申合、目安方へ御断可申事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一何町何屋何兵衛方丁内何屋誰借屋何屋何兵衛相手取、

預ケ銀 預ケ銀 出入二付、昨幾日奉願上御裏印奉請候、然ル所
何代銀 出入二付、昨幾日奉願上御裏印奉請候、然ル所

右何兵衛二先訴御座候二付左二奉申上候

当何月幾日願

願人何町

一預ケ銀出入

何屋何兵衛

相手右 何屋何兵衛

右出入当何月幾日^(決脱)対之上六十日切被為 仰付、当時

御日切中二御座候

当何月幾日願

願人何町

一何代銀出入

何屋何兵衛

相手右 何屋何兵衛

右御引上ケ願掛ケ

右之通先訴御坐候二付願人申合、乍恐御断奉申上候、尤
此外後訴・諸掛り合等無御座候、以上

「町代控書」

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

願人 何兵衛

御奉行様

「三十八 先訴相済候時者先訴人・後訴人并丁内三方申

合、目安方江相断可申事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一何町何屋何兵衛^右丁内何屋誰借屋何屋何右衛門相手取

預ケ銀出入二付、当何月幾日奉願上候処、右出入今日

相済申候、然ル所右何兵衛二願掛ケ御座候二付、左二

奉申上候

当何月幾日願掛ケ

一預ケ銀出入

願人何町

何屋何兵衛

相手右 何屋何兵衛

右出入日順二相成候二付請させ申度願人申合、乍恐御断
奉申上候、此外後訴・諸掛り合無御座候、以上

何屋

年号月日

何兵衛

御奉行様

「願掛ケ数口有之時ハ此外と申所^右左之通可認事」

此外後訴・願掛ケ数口有之候、其外諸掛り合等無御

座候、已上

「三十九 先訴相済願人^右願直シ之断」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取^{預ケ}銀出入二付、当

何月幾日奉願上候処、其節先訴有之私願御引上二相成

御座候、然ル所右先訴今日相済私願日順二相成候趣、

相手方丁内^右通達仕具候二付、右願掛ケ之出入来ル幾

日之御用日二奉願上度、乍恐此段奉申上候、已上

年号月日

何屋

(四十一カ)

何兵衛

御奉行様

「右願直シ刻限延引致候義有之時ハ其段目安方へ御断
申上候事」

「訴状表町名或家号・名前等違有之節張紙之断、尤願
人・相手方并丁内江も届無之願上、右相違有之方ハ
其段申上候得者御引上ケ成り又々願直シ可申事」

「四十 願掛ケ出入願止メ断」

乍恐口上

「御差日ニ不罷出候節書付也」

乍恐口上

何町

「四十式」

何町年寄

何屋何右衛門

何屋何兵衛

一何町何屋誰幼少ニ付代判何兵衛借屋何屋何兵衛相手取
預ケ銀出入二付、当何月幾日奉願上候所其節先訴有之、
何代銀出入二付、然ル所右先訴今日相済、
私願御引上ケニ相成御坐候、然ル所右先訴今日相済、
私願日順ニ相成候趣ニ候処、私願之出入も対談之上、
今日相済候二付、右願掛ケ之出入相止メ申度候二付、
乍恐此段御断奉申上候、以上

一何町何屋何兵衛〆丁内何屋誰借屋何屋何兵衛相手取、
預ケ銀出入二付、昨幾日奉願上御裏印奉請候、然ル所
町名或者家主又ハ家号何と有之相違御坐候二付、張紙
仕度願人へ申合、乍恐御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

御奉行様

年号月日

何屋

何兵衛

何右衛門

「右番附之

御奉行様

四十式

御差日ニ罷出候節書付なり」

乍恐口上

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

一何町何丁目何屋何兵衛ハ私相手取預ケ銀出入ニ付当何月幾日奉願上、昨幾日御召日ニ御座候ニ付、右出入相済申度存途中迄罷出候処、不斗病氣差発リ養生仕罷在候内、昨日を過シ御差日不參仕不調法之段恐入奉誤候、尤右何兵衛ハ願上候出入、対談之上内済仕候間、何卒御慈悲ヲ以右不調法之段御赦免被為 成下候ハ、難有仕合奉存候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

家主

五人組

年寄

御奉行様

「四十三 御差日相手方不參致、出入内済ニおよひ願人書付」

乍恐口上

何町何丁目

何屋何兵衛

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛相手取預ケ銀出入ニ付当何月幾日奉願上、昨幾日御召日ニ御座候処相手方不參仕ニ付其段御断奉申上候処、相手之者御召出ニ相成、然ル処私願之出入対決之上銀子不残受取出入内済仕、偏ニ御威光故与難有奉存候、何卒右願御下ケ被為 成下度、乍恐奉願上候、尤願掛ケ之有無相手方相糺候処、後訴願掛一切無御座候、以上

年号月日

何町

何兵衛

御奉行様

「対決之上御糺ニ成候出入相済候節、左之通書付差上於御前ニ済口御聞届被成候上、吟味方御役所へ外ニ済口証文差上候事」

乍恐口上

「四十四」

何町何丁目

何屋何兵衛

御奉行様

五人組 何屋何右衛門
年寄 何屋何右衛門

一何町何屋誰借屋何屋何右衛門相手取何之出入、当何月
幾日奉願上、同何月幾日対決之上相手方返答申上候
二付御糺ニ相成候処、下ニ而対談仕度昨幾日迄追々御
日延御猶予之儀奉願上御聞届被為 成下候、然ル処右
出入銀高何程之処何百匁当時請取、何百目ハ証文ニ相
改或ハ了簡仕、以来双方申し分なく内済仕候、偏ニ御
威光故と難有奉存候、依之何卒済口之儀御聞届被為
成下候様仕度、乍恐連印ヲ以奉願上候、以上

年号月日

何町

何屋何兵衛

五人組 誰

年寄 誰

何町何丁目何屋誰かしや

相手 何屋何兵衛

家主 何屋何兵衛

「 済口証文認様

四十五

大半紙二ツ折ニして認可申」

差上申済口証文之事

一何町何丁目何屋何兵衛何町何屋誰借屋何屋何右衛門
相手取何之出入当何月幾日奉願上、同何月幾日対決之
上相手方返答之趣ヲ以御糺ニ相成、双方御吟味奉請候
処下ニ而対談仕度御日延御猶予之儀願上、内済仕候趣
左ニ奉申上候

一右何之出入銀高何程之処、何百目当時請取、何百目者
証文ニ而改或了簡致、双方無申分出入下済仕、偏ニ御
威光故与難有奉存候、然ル上ハ右一件二付以来出入ケ
間敷儀申上候間鋪候、仍而済口証文差上申所如件

「町代控書」

年号月日

何町何丁目
願人 何屋何兵衛

五人組 誰

年寄 誰

何町何屋誰かしや

相手 誰

家主 同

五人組 同

年寄 同

御奉行所

東ニ而此振合ニ認ル

御吟味奉請候処御吟味御日延奉願、則内済仕候趣左

ニ奉申上候

一願銀高 何と仕候

右之通双方無申分出入内済仕偏ニ御威光と
(以下記載なし)

「四十六 家出之断罷出候日限ハ三日見合、四日目ニ御

当番所へ相断可申事」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一私借屋何屋何兵衛当何ノ何歳・同女房誰何十歳、右兩人或ハ同家誰、又者下人何兵衛、当月幾日之夜何時頃罷出立歸り不申ニ付、方々相尋候得共行衛相知れ不申ニ付、家出御断奉申上候、御帳面御留置被為成下度、乍恐奉願上候、以上

但諸掛り合等一切無御座候、已上

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

年寄 何右衛門

御奉行様

但シ借屋人・同家人之
断者家主奥印

「右同家人・下人等ハ立歸り候ハ、御断申上候様被仰渡候、借屋人ハ三十日見合立歸り不申候ハ、残シ道具書上御断申上候様被仰渡候事」

「四十七 残シ道具書上」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

御奉行様

年寄

何右衛門

何屋

一私借屋何屋何兵衛・同女房誰兩人義、当何月幾日罷出立歸り不申二付、同幾日家出御断奉申上候処、三十日見合立歸り不申候ハ、残シ道具書上御断奉申上候様被仰渡奉畏候、則今日三十一日目ニ御坐候得共立歸り不申二付残道具書上、乍恐御断奉申上候、以上

〔四十八 家出残道具無之断〕

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一何 壺
一何 壺
一何 壺
一何 壺
一何 壺

ノ 何十点

何屋

何兵衛

年号月日

書面之残道具色品、最初立会相改候節不相替聊相違之義無御座候、依之奥印仕候、已上

一私借屋何屋何兵衛・同女房誰・同倅誰右何人共、当何月幾日家出仕候二付其段同何月幾日御断奉申上候所、三十日見合立歸り不申候ハ、残シ道具書上御断奉申上候様被為 仰付奉畏候、則今日三十一日目ニ御坐候へ共立歸り不申候二付乍恐御断奉申上候、尤残道具之儀最初相改候所一色も無御坐候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

残道具之儀家主方奉申上候通、最初立合相改候処一切
無御坐候、依之奥印仕候、以上

何屋

年寄 何右衛門

御奉行様

「四十九 家出之者罷帰候断」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛

一私同家何兵衛又ハ下人何助与申当何十歳ニ相成候者、
当何月幾日家出仕候ニ付、同幾日其段御断奉申上候、
然ル処右何兵衛義心願之儀有之伊勢参宮仕、或者西国
巡礼又ハ四国遍路相廻り候由申之、今朝罷帰り候ニ付、
乍恐御断奉申上候、御帳面御消被為 成下候ハ、難有
奉存候、尤道中筋先々悪事等之儀相糺候処諸掛り合一
切無御坐候、以上

何屋

年号月日

何兵衛

家主 何右衛門

何屋

御奉行様

「五十 残シ道具・同家之者へ被下度願書」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛同家

何兵衛

一私忤何兵衛儀当何月幾日家出仕候ニ付、其段同幾日丁
内家主方御断奉申上候処、三十日見合不立帰候ハ、残
道具書上御断申上候様被 仰渡、則今日三十一日目ニ
御坐候得共立帰り不申ニ付、其段家主方御断被申上
候、然ル処私儀老年ニおよひ可手寄親類等も無御坐候
得者及渴命ニ可申与歎ケ敷奉存候ニ付、恐多奉存候得
共、何卒右残シ道具私へ被為 下置候様仕度乍恐奉願
上候、御聞届被為 成下候ハ、難有奉存候、以上

何兵衛

何屋

家主
何兵衛

年号月日

何屋

年寄
何右衛門

御奉行様

「右家主方残道具書付差上候跡へ願書差出可申候、御聞

届有之上、御礼之書付差上申候事」

「五十一 残道具被下候御礼之書付」

乍恐口上

何町何屋誰借屋

何屋何兵衛同家

何兵衛

一私倅何兵衛義家出仕立歸り不申二付、所持残シ道具何

十点書上家主方御断奉申上候処、私老年ニおよひ可手

寄親類も無之難渋仕候ニ付、私へ被為下置候様仕度奉

願上候処御聞届被為成下、右残道具不残被為 下置難

有仕合奉存候、依之乍恐書付ヲ以御礼奉申上候、以上

何兵衛

何屋

家主
何兵衛年寄
何屋

何右衛門

御奉行様

(五十二)

「家請会所へ家明け届ケ」

覚

一私借屋何屋何兵衛・家請人何町何屋誰請人ニ而貸置候

家、入用ニ御坐候間早々明渡候様御申付可被下候、以

上

何町

何屋何兵衛

年号月日

三郷家請会所

「五十三 久離願」

乍恐久離御願

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

一私同家忝何兵衛与申当何ノ何拾歳ニ罷成候者、常々不行跡ニ付親類共立会度々異見仕候得共不相用、剩去ル何月幾日家出仕不行跡相重り、此上如何様之悪事仕出シ可申哉、後難之程難計奉存候ニ付、乍恐久離御願奉申上候、何卒御聞届被為 成下候ハ、難有奉存候、尤此外諸親類一切無御坐候、以上

何屋

何兵衛父 何兵衛

年号月日

何屋 何兵衛

何屋 何兵衛

私兄ニ御坐候へ共 何町何屋誰かしや

両親方通路仕間敷 何屋

趣申間候ニ付、乍 何屋 何兵衛

恐同様奉願上候

何町何屋誰かしや

何屋

何屋 何兵衛

何屋

家主 何兵衛

何屋

五人組 何兵衛

何屋

同 何兵衛

何屋

年寄 何左衛門

御奉行様「但親類之丁内ハ付添ニ不及候」

「五十四 住居致居候者久離願仕候認方、尤親類連印

口々同様」

一何町何屋誰借屋何屋何兵衛与申当何拾歳ニ罷成候者私忝ニ御坐候処、常々不行跡ニ付親類共立会度々異見仕候得共不相用、此上如何様之悪事仕出シ可申哉後難之程難計奉存候ニ付、乍恐久離御願奉申上候、何卒御聞届被為 成下候ハ、難有奉存候、尤右御願申上候趣当人へ申聞承知仕罷在候、勿論此外諸親類一切無御坐候、以上

「右願親類一同并元町所之者付添、御当番所へ願書差出

可申、於御前二御聞届之上受印形御取被成候事」

「五十五 久離御赦免之願」

乍恐口上

何町何屋誰かしや

何屋何兵衛

一私同家忤何兵衛と申当何ノ何十歳ニ罷成候者不行跡相
重り後難之程難計奉存候ニ付親類共申合、去ル何ノ何
月幾日久離御願奉申上候処御聞届被為 成下候、然ル
処右何兵衛儀艱難仕心底相改候間、何卒久離御赦免之
儀奉願上呉候様段々相託申候、最早心底茂改り候様奉
存候ニ付乍恐御願奉申上候、何卒久離御赦免被為 成
下候ハ、難有奉存候、以上

年号月日

願之節

親類連印

家主・五人組

年寄奥印

御奉行様

「普請板かこひ願、地方役所へ差出ス」

乍恐口上

「五十六」

何町

何屋何兵衛

一私居宅家屋敷表口何間・裏行何拾間壱ヶ所、右建家破
損仕候ニ付取払、是迄之通普請仕度并右普請中板囲い
たし申度乍恐奉願上候、御聞届被為 成下候ハ、難有
奉存候、已上

年号月日

何屋

何兵衛

年寄

何右衛門

御奉行様

「板囲取払之断」

乍恐口上

「五十七」

何町何屋

何兵衛

「町代控書」

一私居宅屋敷破損仕候ニ付取払、是迄之通普請仕度并右普請中板囲いたし度段当月幾日奉願上候処、御聞届被為 成下候、然ル所右普請出情仕板囲取払申候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

年寄 何右衛門

御奉行様

「浜地普請願地方役所へ差出御聞届相済候ハ、同様之願書川方役所へ茂差出可申事

五十八」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一私所持居宅先浜納屋地、間口何間・浜行何間之所ニ是迄間口何間・浜行何間建家御坐候処破損仕候ニ付取払、

下地之通間口何間・浜行何間建家仕度、尤足駄造り普請仕候ニ付別紙絵図差上乍恐奉願上候、御聞届被為 成下候ハ、難有奉存候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

何右衛門

御奉行様

「右御聞届相済候ハ、板囲願引続ニ差出可申候」

「五十九

浜地普請板囲願」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一私所持居宅先浜納屋地ニ有之候建家破損仕候ニ付取払、是迄之通普請仕度段奉願上御聞届被為 成下候、依之右普請中板囲仕度、尤岸岐通り者竹垣ニ仕候間、御聞届被為 成下度乍恐奉願上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

年寄
何左衛門

御奉行様

御奉行様

「六十一 撰持之願地方役所へ差出ス」

乍恐口上

何町年寄

何屋何左衛門

「六十 板囲取払之断」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一私所持居宅先浜納屋地ニ有之候建家破損仕候ニ付取
 払、下地之通足駄造りニ普請仕度并右普請中板囲仕度
 段、当何月幾日奉願上御聞届被為 成下候、然ル所右
 普請出来仕候ニ付板かこひ并竹垣取払申候ニ付、乍恐
 此段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

何屋

年寄
何左衛門

一此節暑強御坐候ニ付往来之者へ施之ため明幾日へ来ル
 幾日迄撰持仕度、尤丁内通り筋者相除ケ横町ニ而延日
 覆仕度旨丁内之者共申之ニ付乍恐奉願上候、勿論火之
 元之儀大切ニ仕候様可申付候間、何卒御聞届被為 成
 下候ハ、難有奉存候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

御奉行様

「右撰持仕廻候ハ、其段地方役所へ御断可申上候事」

「町代控書」

「六十式 捨子之断」

乍恐口上

何町何丁目

何屋何兵衛

一今曉六ツ時過私居宅軒下ニ当歳之男子捨有之候ニ付、早速養育仕置、乍恐此段御断奉申上候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

年寄 何兵衛

何屋

御奉行様

「六十三 捨子貰人有之候ハ、貰主・請人申合、願書

御当番所へ差出可申事」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一当何月幾日私居宅軒下□^(虫損)当歳之男子捨有之候ニ付此段

御断奉申上候、養育仕罷在候、然ル上^(ママ)処、右捨子何町

何屋誰借屋何屋何右衛門貰請養育仕度趣申之二付、身

元并母乳等茂見受候処宜御坐候故、何町何屋誰借屋何

屋何兵衛請人ニ取差遣申度奉存候ニ付、乍恐右之段奉

申上候、御聞届被為 成下候ハ、難有奉存候、以上

何屋

何兵衛

年号月日

何屋

年寄 何兵衛

右申上候通私貰請大切ニ養育可致候間、被 下置候様仕度、乍恐奉願上候、以上

何町何屋誰かしや

何屋

貰主 何兵衛

何町何屋誰かしや

何屋

請人 何左衛門

御奉行様

「六十四 非人行倒之断」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一今何時頃丁内何屋何兵衛居宅先大道二、常々見馴候年頃何十歳計之男非人病氣躰二而行倒申候二付、薬用等致させ心を付置、乍恐此段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

「右書付御当番所へ差出可申、高原小屋へ引渡候様被仰渡候事」

「六十五」

覚 「高原小屋へ遣候書付也」

一丁内何屋何兵衛居宅先大道二、年頃何十歳計之男非人病氣躰二而行倒候二付、御番所様江御訴申上候处、其元小屋江差遣候様被 仰渡候故、則送り遣候二付、

書付を以申達候、以上

年号月日

高原

役人中

御当番与力衆名前書遣候事

「 非人相果候節年寄・月行司罷出、御当番所へ

六十六 書付差出可申、病死相違無之趣御請証文御取

被成候事」

乍恐口上

何町年寄

誰

月行司

誰

一今何時頃丁内何屋何右衛門居宅先大道二、常々見馴候年頃何拾歳計之男非人病氣躰二而行倒候二付、薬用等為致候得共不叶相果候、尤立会相改候处見二疵等茂無

之病死二相違無御坐候二付、乍恐此段御断奉申上候、
以上

年号月日

年寄

御奉行様

年寄

何屋何兵衛

年行司

御奉行様

「六十七 同御請証文」

差上申御請証之事

一何町何屋何兵衛居宅先キ大道二、常々見馴候年頃何十
歳計之男非人相果罷在候二付、其段御訴申上候処病死
之牀二無相違候哉与猶又御尋二付左二申上候

一右死骸年寄・丁人立会得与見及候処、惣身二疵無御座、

全病死与奉存候、勿論常々見馴二非人二相違無御座候

段申上候所、死骸片付被 仰付、若右死骸之儀二付後

日不埒之筋相顕候ハ、私共可為 越度旨被 仰渡奉畏

候、仍而御請証文件

年号月日

何町月行司

何屋何兵衛

覺

「六十八 同墓所へ遣候書付」

一丁内何屋誰居宅先大道二、常々見馴候年頃何十歳計之
男非人行倒果候二付御番所様へ御訴申上候処、右死骸
片付候様御当番 何之何左衛門様 被 仰渡候二付、其元
墓所へ差遣候間、灰除場へ土葬二御取置可給候、已上

年号月日

何町

丁代

聖六坊殿

一橋之上・橋台二而行倒・変死等有之節ハ両詰年寄申合、
御断二罷出候事

「 往来人相果候断御当番所へ差出可申候、御檢
六十九 使御出御見改之上、又々御番所へ罷出、三日

さらし被仰渡、高麗橋江建札御渡有之候事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何兵衛

一今何時頃丁内何屋何兵衛居宅先大道二、年頃何十歳計之男病氣躰ニ而行倒候二付、早速駈付医師・薬用等為致介抱仕候得共不叶相果申候二付、乍恐此段御断奉申上候候、已上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

「三日さらし之上人主不相知候ハ、四日目二
七十 御断可申上、死骸仮り片付被 仰渡候事」

乍恐口上

何町年寄

何屋何右衛門

一当月幾日丁内何屋何兵衛居宅先大道二、年頃何十歳之

男行倒相果候二付御訴奉申上候処、御検使被 成下候上三日さらし被為 仰付、高麗橋江立札仕、人主相知レ候ハ、可申上旨被 仰渡候処、今日四日目二候得共未人主相知れ不申二付、乍恐右之段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛

御奉行様

「七十一 仮片付墓所へ遣候書付」

覚

一当月幾日、丁内何屋誰居宅先大道二、年頃何十歳計之男行倒相果候二付御訴申上三日さらし被 仰付候上、人主相知レ不申二付、右死骸仮片付二仕候様御当番何之何左衛門様被 仰渡候間其元墓所江差遣候、宜御何之何右衛門様被 取置可給候、以上

何町

月日

丁代誰

聖六坊殿

「七十二 変死之断」

乍恐口上

何町

何屋何兵衛

一私借屋何屋何兵衛義、今何時頃居宅ニ而首縊居申候ニ
付早速駆付見請候処、最早絶命仕罷在候ニ付、乍恐此
段御断奉申上候、以上

年号月日

何屋

何兵衛
何屋

年寄
何左衛門

御奉行様

「右変死之断ハ家主・年寄罷出御当番所へ書付差出可申、
御検使御出御^(見方)改、親類一同申口御聞取之上、又々御
番所へ罷出、於御前ニ死骸片付御聞届之上、御請証文
御取被成候事」

「七十三 御請証文認方」

差上申御請証文之事

一何町何屋誰儀昨幾日於居宅首縊相果候ニ付、此段誰并
所之者ヲ御訴申上候処、御検使被 成下候上私共一統
被 召出、不審心当之儀御尋ニ付左ニ申上候
一誰儀・女房誰・悴誰与家内何人相暮何商売仕、平生曉^(睦)
敷相暮罷在候処、

是方夫々心当り之次第并変死を見付候もの之申立
文言作り

早速所之者へ相知せ御訴申上候儀ニ而全自滅ニ無相違
奉存候上ハ、親類共一統外へ対し申分無御坐候間、死
骸被下置候ハ、片付申度奉願候、此外親類一切無御座
候段申上候所、被 聞召上誰死骸片付候様被 仰渡難
有奉畏候、御請証文如件

年号月日

何屋町何屋誰

かしや

何兵衛

親類連印

最早見付候もの

右御請証文之趣相違無御坐候ニ付奥印如件

御奉行様

年号月日

何屋誰

家主

五人組

年寄

〔七十五 右ニ付受取候断〕

乍恐口上

御奉行様

何町

何屋誰

「家質置主身躰限り被 仰付候ニ付、銀主之断」

乍恐口上

一何町何屋誰家屋鋪私家質ニ取置候処、何屋町何屋誰方

預ケ銀出入奉願上、出入相済不申三十日御押込被為

仰付、当幾日御切日ニ御坐候得共出入相済不申ニ付、

右家屋敷之儀御断奉申上候処、右何兵衛身上限願人江

相渡候様被為 仰付、家屋敷之儀者願人江掛合元利請

取候様被為 仰付候得共、願人右屋敷望ニ無御坐候ニ

付私江受取帳切仕候、対談相済申候ニ付、乍恐此段御

断奉申上候、以上

年号月日

何屋誰

右之通相違無御座候、以上

願人

〔七十四〕

何屋町

何屋誰

一何町何屋何兵衛家屋敷銀何貫目之家質二年寄・五人組

連判ヲ以先達私方江家質ニ取置候処、右何兵衛儀何屋

町何屋誰方預ケ銀出入奉願上、出入相済不申三十日押

込被為 仰付、則今日御切日御坐候得共出入相済不申

候段右丁内方通達致呉候ニ付、右申上候通家屋敷之儀

者私方へ家質ニ取置御坐候ニ付、乍恐此段御断奉申上

候、以上

御奉行様

何屋誰
同 何屋誰

年号月日

何町——判

請人

誰判

乳母

誰判

(朱印)
乳母手形之事

何屋

誰殿

一此何与申女一ヶ年之御切米銀五枚宛三度之御仕着之約
束二而銀百匁御渡被下慥二請取申、五ヶ年切候而乳母

実正也

奉公ニ差遣候、生国者何国何与申者之女土而御座候△、

△宗旨之儀ハ代々何宗ニ御坐候、然ル上者△

御子息常々大切御養育可仕候、御髪置・御袴着之御祝

儀等者勤方次第二可被成候△一年季之内如何様之儀有

之候とも御暇貰申間鋪候、若病氣ニ候欵又ハ乳汁不足

仕候ハ、代り相立可申候、勿論日夜食事無差与仕候も

の一切為給申間敷候

右之条々違背仕候ハ、請人罷出急度相守せ可申候、為後

日一札仍而如件

(朱印)
不通養子手形

一御自分男子何之助義此度手前江不通之約束二而貰申処

実正也、則為樽料銀何枚慥ニ受取、残り何枚ハ何月迄

之内両度ニ請取申筈相究候、此後我等実子設候とも此

誰惣領ニ相立家財不殘相譲り可申候、若身上不如意ニ

罷成奉公ニ出し候共、野良等ニ遣候儀仕間敷候、為後

日仍而如件

年号月日

親何国何郡何村

誰娘

(朱印)
借家請狀之事

一 何町何屋誰殿家ニ何屋誰与申仁借屋仕居被申候、此仁生国者何国何村何某子ニ而從先祖能存知慥成仁ニ御座候故、我等請人罷立申候、此仁御法度之切死丹宗門又ハ武士之浪人ニ而も無之、宗旨者代々何宗ニ而御坐候一 從 御公儀様被為 仰出候儀堅相守、博奕・遊女之宿其外一切悪敷者一夜之宿為致申間鋪候

一 御家人入用之儀候ハ、何時成候とも早速明させ可申候、若及延引候ハ、妻子・諸道具共請人方へ引取御家渡可申候、万一此仁ニ付如何様之六ヶ敷義出来候共我等罷出相濟、御町中・家主へ少茂御難義懸申間敷候、為後日借屋請狀仍而如件

何之通何町

請人

年号月日

誰

何町

借主

誰

何町御年寄

誰殿

御町中

又ハ家主宛

(朱印)
死跡名前譲り

一札

一 御町内何屋誰支配借屋何屋何兵衛儀当何月何日病死仕、跡名前親類之内名前ニ可相成者無御坐候、依之右親類及相談候処、同親類之内備後町壱丁目何屋誰方ニ同家下人何兵衛与申当何ノ何十歳ニ相成候者跡名前ニ仕度候、依之御丁内御帳面表御改可被下候

一 從御公儀様被為 仰出候御法度之趣堅相守可申候、然ル上者毎月判形之節并御触度毎自分罷出右御趣意得与承り印形可仕候、其外不依何事ニ御町内御作法之儀毛頭為相背申間敷候、且又右名前之儀ニ付親類者勿論脇ハ違乱妨申者壱人茂無御坐候、万一如何様之儀出来仕候共此印形之者罷出急度埒明、御丁内并御家主江少シ茂御難儀掛ケ申間敷候、為後日仍而名前譲り一札如件

「町代控書」

年号月日

何町何屋誰死跡

何町何丁目何屋誰

下人同家

跡名前入

何兵衛

誰後家或ハ從弟

名

親類惣代何町

何屋

誰

御年寄

殿

御家主

殿

右何兵衛江死跡名前譲り被申候処相違無御坐

候、私立会出所得与相糺、少しも相違無御坐候、

以上

家主

御年寄

殿

(朱印)
家号

名前替一札認方

一札

一私儀是迄奈良屋儀兵衛ニ而相続仕候処、此度勝手ニ付

何屋何兵衛与相改申候間、諸帳面御改可被下候、且又

右之通改申候儀ニ付外ハ彼是申者無御座候、万一彼是

有之候共其元并御町内江少シ茂御難儀懸ケ申間敷候、

為其一札仍而如件

年号月日

奈良屋儀兵衛

家号名改

美吉屋

五郎兵衛

家主

何屋誰殿

(朱印)
譲り渡株札之事

一我等是迄何商売株ニ而商内仕候処、此度勝手ニ付右仲

間株札并諸帳面共其元江樽料銀何拾枚ニ而永代譲り渡

申、則銀何拾枚儘ニ受取申候実正也、然ル上者仲間諸

掛り入用銀、以来者其元〆御出銀可被成候、尚又右株
札譲り渡候儀ニ付脇〆違乱妨申もの𪛗人茂無御坐候、
万一如何様之儀出来候共、此印形之者罷出急度埒明、
其元江少も御難儀懸ケ申間敷候、為後日譲り渡一札仍
而如件

年号月日

株譲り渡本人

誰

請人

誰

右前書之趣我等立会相違無御坐候、以上

何仲間年行司

誰

何屋何兵衛殿

乍恐刻限延御断

一何町何丁目何屋何兵衛〆私相手取何出入何ノ何月幾日
被願上、則今日対決被為仰付奉畏、双方罷出候処、刻
限延引仕候ニ付双方申合、乍恐此段御断奉申上候、
以上

年号

月日

何町何丁目

何屋誰

病氣ニ付

誰印

五人組

印

家主

年寄

誰印

願人

誰印

御奉行様

大坂町内諸家様

御家来旅宿届ケ

乍恐口上

一何之何守様御家来何之誰殿上下何人、此度何町何丁目
何屋誰請負を以私方ニ而旅宿仕、則今朝六ツ時比着被
渡候ニ付、乍恐此段御断奉申上候、以上

何町何丁目何屋誰

かしや

何——印

年号月日

家主

何屋 誰印

御奉行様

但し東西へ旅宿引受人 𪛗人当番所へ書付持参之事

御請状之事

此長と申女御腰元奉公ニ指上ケ申所実正也、此女生国者丹波宮津之御城下之者ニ而夫茂無御座、其外何之差障無之、慥成者故私請合ニ相立申候、若御縁御座候ハ、末々迄被召仕候共、此請状ヲ以御奉公為相勤可申候、尤宗旨者何宗ニ而私方宗旨手形預り置候、御入用之節者何時ニ而も差上可申候、為後日女請状仍而如件

養子証文之事

一私忤清三郎与申者当年八才ニ相成候所、此度其元殿江御縁を以養子ニ差遣候所実正也、宗旨ハ代々西門徒衆ニ紛無御座、然ル上者已来清三郎義ニ付万一彼是故障ケ間敷義申出候者有之時者連判之者江罷出、急度埒明少茂其元殿江御難儀相懸中間鋪候、為其差入置一札仍而如件

月日

親

証人

世話人

公事訴訟日

五月 五日ハ 御延引

六月廿五日ハ 右同断

七月 七日ハ 右同断

史料紹介

御金日	毎月	五日	張紙日	四日	十九日	書上月登り米	正 四	同拾壹品	二 五	雨繁キ四月	御金上納月	川 浚
		十六日		九日	廿四日		七十		八十一	精霊祭七月		二 五
		廿三日		十四日	廿八日		右四ヶ月		右四ヶ月			右三ヶ月

御用人足	支配銀	火消方	惣代扶持	献上物	御伝馬	諸方	初穂納	「享和式壬戌年 五月吉日」	高嶋 蓐
二 四	九 十				十一月		二月		周知（花押）
七	十二								
六ヶ月									

此本磯矢氏ノ在宿中認□□□□